

# 虐待防止、コロナ対策は

## 県立大 韓国・又松大と学術交流

県立大(総社市窪木) や子育て、高齢者福祉は、連携協定を結ぶ韓国などの分野で双方が発国の又松大との国際学表を行い、研究で共通術交流会をオンラインする部分や成果について初めて開いた。看護で意見交換した。



韓国・又松大の発表に耳を傾ける県立大の教員と学生

交流会は保健福祉学部の教員と大学院生、大学生を対象に、10月に計4回実施。子どもの虐待防止政策や高齢者の栄養問題、就学前教育と小学校教育の連携などをテーマに教授らが発表した。

13日は両大から約130人が参加。「新型コロナウイルス感染症に対する看護政策」に  
関し、県立大看護学科の森本美智子教授と又松大同学科のキム・ジンスク教授が発表した。森本教授は看護師らが着用する防護服の汚染物質が付着しやすい部位の研究を紹介。キム教授はコロナがきっかけで広がったオンライン実習が学生に及ぼす影響について話した。

出席した学生らからは「コロナへの対応過程が似ていて、親近感を覚えた」「交流を機に研究が加速すれば。停滞していた海外との交流をさらに進めた。県立大と又松大は2005年に国際交流協定を締結。学生の短期留学や学術交流に取り組んできたが、コロナ禍で約3年途絶えていた。(寺尾彰啓)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。